府中町ふるさと歴史散歩〔第24回〕

府中の食文化　年中行事と食べもの ④

―府中村の亥の子まつり―

府中村は農家が多く、その秋の収穫祭を兼ねて亥の子まつりが行われていた。猪（いのし）は多産であることから、子孫繁栄を祈願し、11月の第一亥の日、亥の刻（夜半）に、明治後半に発足した青年会（後の青年団）が主になって行われていた。

代々、その集落に伝わる亥の子石（男石・女石）を紅白の紙や竹で飾りつけ、八方から縄をかけ、集会場（神社・寺・当番家）に祭壇を設け、当日まで供物と一緒に置いていた。その前で青年たちが毎夜、太鼓や囃子（はやし）言葉の練習をし賑やかであった。

当日は赤鬼青鬼が先導し、多くの青年が亥の子石を持ち各家を回る。鬼たちは土足（わらじ）で上がり、「きいづき鬼を出せ～」と大声で言い、花代（祝儀）をもらい、土間や庭で男石を上下させ、ドスンドスンと打ちつけ、ついた跡が深くくぼむ程だった。

女石は空中で上下させるだけであった。

青年たちは、その太鼓の音や、歌を競い合い明け方まで続いていた。所によっては、太鼓の取り合いや喧嘩（けんか）が絶えなかったといわれる。

祭りの特別な食べものは無かったが、松茸（まつたけ）とにんじん、ごぼう入りのしょうゆご飯のむすびとみかんが振舞われ、子どもたちはそれを持って、小高い所から鬼たちを見ていた。

―囃子言葉―

亥の子　亥の子
亥の子もちついて祝わんものは
鬼を生め　蛇（じゃ）を生め
角のはえた　子を生め
これの　これの
〇〇さんに　嫁とって～
繁昌（はんじょう）せー　繁昌せー

―亥の子の神―

亥の子の神は火の神と言われ、亥の子の日にこたつを出せば、火事に遭わないと言われていた。

冬の暖をとるのに、こたつは必要であった。家の中央に炉を築き灰を入れ、やぐらを置き布団をかける。炉の灰の中に赤くなった炭火を置き少し灰をかけておくと一晩中暖かった。

府中町文化財保護審議会副会長
秋山　榮子

問い合わせ
教育委員会生涯学習課
☎286―3272

亥の子祭り